

Christoph KÖNIG Bio

クリストフ・ケーニッヒ プロフィール

ーオーケストラ・シンフォニカ・ド・ポルト・カサ・ダ・ムジカ主席指揮者
ーソロイスト・ヨーロピアン・ルクセンブルク主席指揮者および音楽監督

クリストフ・ケーニッヒの熱い情熱はベートーヴェンの第 3 番エロイカの新たな側面を見せてくれた。何よりも彼はこの交響曲に新しい息吹を吹き込み、新鮮な演奏を聴かせてくれたのだ。

ヘラルド紙

クリストフ・ケーニッヒは深い知性と音楽性を持った指揮者である。彼は現在オーケストラ・シンフォニカ・ド・ポルト・カサ・ダ・ムジカの主席指揮者の任（2009 - 12 年）にあり、さらに近年、ソロイスト・ヨーロピアン・ルクセンブルクの主席指揮者と音楽監督にも就任した。配慮の行き届いた、それでいて刺激的なプログラムを提示する彼の指揮はエネルギーであり、同時に音楽そのものへの、そして共演者への思慮深いアプローチで定評がある。2 年目を迎えるポルトにおいては、マーラーの交響曲第 1 番から第 3 番とブルックナー、シュトラウス、ラヴェルの大作のみならず、ヘンツェ、サーリアホ、ピンチャーといった重要な現代作曲家の作品も取り上げている。なお、オーケストラの 10 周年を記念するシーズンは、ウィーンのコツェルトハウス（2010 年 9 月 4 日）でマーラーの交響曲第 1 番を彼が指揮して幕を開けた。

ケーニヒはヨーロッパやアメリカにおいて客演指揮者としても人気が高い。最近の公演ではオランダ・フィルハーモニー管弦楽団、モーツアルテウム・オーケストラ、トーンキュンストラ管弦楽団、リアル・フィルハーモニア・デ・ガリシア、マドリッドの RTVE 交響楽団、ローザンヌ室内管弦楽団、ロンドン・モーツアルト・プレイヤーズ、スコティッシュ室内管弦楽団、BBC フィルハーモニー管弦楽団が挙げられ、その中でも BBC スコティッシュ交響楽団との中国公演では（2008 年 5 月）は大変な成功を収めた。また昨シーズンのニュージャージー交響楽団との初共演で指揮したマーラーの交響曲第 5 番は大変に高い評価を得たことから、同オーケストラとの再演、およびインディアナポリス、コロラド、フェニックス、そしてヒューストン交響楽団への出演が決定した。

クリストフ・ケーニヒはマルモ交響楽団の主席指揮者を 2003 年から 2006 年まで務め、グラン・カナリア・フィルハーモニー管弦楽団の主席指揮者も経験している。この 2 つのオーケストラにおいて彼はハイドン、モーツアルトからリゲッティ、ヘンツェ、ターネッジといった幅広いレパートリーを指揮している。またマルモ交響楽団とは《蝶々夫人》や《ニルンベルクのマイスタージンガー》といったオペラもコンサート形式で取り上げている。

オペラ作品の指揮者としては、2003年に急遽指揮をすることとなったチューリッヒ歌劇場におけるジョナサン・ミラー演出の《後宮からの逃走》によって一躍注目を浴びることとなった。チューリッヒ歌劇場では《魔笛》やチェチーリア・バルトリヤルツジェロ・ライモンディを迎えての《イタリアのトルコ人》も指揮しており、他にもマドリッドのテアトロ・レアルで《後宮からの逃走》、シュトゥットガルト国立歌劇場で《ドン・ジョバンニ》、ベルリン・ドイツ・オペラで《魔笛》と《リゴレット》を指揮している。

録音では、オーケストラ・シンフォニカ・ド・ポルト・カサ・ダ・ムジカと共にシェーンベルクとプロコフィエフ《ロミオとジュリエット》、サーリアホとシベリウスの交響曲第7番をアオ・ヴィーヴォ・レーベルから、メルセルをBBCスコティッシュ交響楽団と共にハイペリオン・レーベルから、マルモ交響楽団と共にベートーヴェンの交響曲をDBプロダクションから、そしてソロイスト・ヨーロピアン・ルクセンブルクと共にプロコフィエフとモーツァルトのCDをSELレーベルからリリースしている。なお、BBCスコティッシュ交響楽団を指揮したブラームスのピアノ協奏曲第1番のCDジャケットは2009年9月にBBCミュージックマガジン誌の表紙を飾っている。

ケーニッヒは、彼も歌っていたあのドレスデン聖十字架合唱団のあるドレスデンに生まれた。その後、ドレスデン音楽大学で指揮法、ピアノ、声楽を学んだ後、指揮者として歩み始めた彼は、セルジュ・チェリビダッケやサー・コリン・デイヴィスのマスタークラスにも参加。この出会いをきっかけにスターツカペレ・ドレスデンでサー・コリン・デイヴィスの助手をシンフォニー・コンサートとオペラ公演で務めるようになった。彼のプロの指揮者としての第一歩は、カラヤン国際指揮者コンクールに入賞した後に就任したヴッパータール/ゲルゼンキルヒェの主席カペルマイスターの任であった。

(2010/2011年)